

2025/9月

TSUDOI

【増刊】GOOD銘柄 継続分析レポート(9月)

TSUDOIはブロックチェーンと仮想通貨に特化した情報配信サービスです。

本レポートコンテンツ

◆『狙い目：中堅銘柄』 継続分析ガイド

過去Goodマークを付与した中堅銘柄の継続分析

◆『大穴：新規銘柄』 継続分析ガイド

過去Goodマークを付与した中堅銘柄の継続分析

このレポートはTSUDOIの有料サービス、スタンダードプランの加入者専用の情報です。レポートの内容は個人的な使用のみを対象としており、商業的な利用は事前の許可が必要です。

レポートの読み方については、一覧に含まれる [「TSUDOI 分析レポートの解説」](#)をご覧ください。

継続分析レポートで中堅・大穴銘柄を調査する理由

中堅・大穴銘柄は、成長のポテンシャルが大きい一方でリスクも高いため、注意深い分析と継続的なモニタリングが重要です。これらの銘柄に特に注目し、直近の潜在的な成長機会を探るとともにリスクを管理する分析を行っています。TOP銘柄とは異なる視点から、潜在的な大きなリターンを狙うための情報を提供しています。

**とは**

TSUDOIリサーチチーム内では、関連ニュースから中長期的に注目を集め、価格高騰が期待できると予想した銘柄にGoodマークを付けています。

有料
レポート

過去週次レポート掲載 中堅銘柄 継続分析ガイド

『狙い目：中堅銘柄』 継続分析ガイド

調査・分析方法について

過去週次分析レポートにて高評価（Good）を付与した銘柄に関する継続調査。

この調査では、以下の点に着目して分析を行います。

1. 直近の注目ニュースの有無：過去高評価を得た銘柄が、その後も新たな注目を集めるニュースが発生しているかどうかを調査します。
2. 直近の重要指標推移：銘柄の市場でのパフォーマンスや他の重要な指標がどのように推移しているかを調査します。

これらの要素を総合的に評価し、投資家にとって有益な情報を提供することを目指しています。

2024年以降のGoodマークを付与した銘柄一覧

銘柄	レポート掲載日	銘柄	レポート掲載日	銘柄	レポート掲載日
Ethereum Name Service	2024年 1/12, 7/26	Taiko	2024年 6/7, 11/13	Ethena	2025年 2/7
Raydium	2024年 11/22, 2025年 1/24	Hyperliquid	2024年 12/20	Pyth Network	2025年 2/21, 9/5, 9/12
Virtuals Protocol	2024年 12/13	Ondo	2024年 6/7, 7/26, 8/9, 9/26, 11/1, 11/22, 12/6	Saros	2025年 4/4
Starknet	2024年 3/8	MANTRA	2024年 7/19	Helium	2025年 4/18
Manta Network	2024年 3/8, 7/5	Jupiter	2024年 8/2, 2025年 7/25	Stacks	2025年 4/25
Axelar	2024年 3/14	Aerodrome Finance	2024年 9/20, 2025年 6/20	Maple Finance	2025年 6/13
Biconomy	2024年 4/5	Worldcoin	2024年 11/1	Sei	2025年 6/27
Metis	2024年 4/26, 5/10	ai16z	2025年 1/17	Euler	2025年 7/11
				Centrifuge	2025年 9/1

※2023年 Goodマーク付与銘柄：ORDI, Celestia, Blur, Terra Classic

◆Hyperliquid、Ondo、Ethena、Worldcoinについては、中堅銘柄からTOP銘柄へ昇格しており継続レポートでの考察は割愛しております。

Raydium : RAY (新規GOOD)

直近の注目ポイント：USD1統合でRAY買戻し需要拡大

9/11 RAYはSolana上の分散型取引所として注目を集めています。RAYが提供する [LaunchLab] は「コミュニティ主導型トークン発行プラットフォーム」で、利用が増えるほど発生する取引手数料の25%がRAY買戻しに使われる仕組みを持ちます。今回、この LaunchLabに米ドル連動ステーブルコインUSD1が統合されたことで、スタートアップのプロジェクトは安定した資金調達を実現しやすくなり、利用拡大がRAY需要を直接押し上げる好循環が期待されます。

Jupiter : JUP (新規GOOD)

直近の注目ポイント：Jupiter Lend多チェーン展開で需要拡大

9/10 Jupiterは、レンディングの新規サービス [Jupiter Lend] をEthereumとPolygonで開始しました。USDYやBTCなど主要な資産を担保に効率的な借入ができ、利用者は安定した利回りと低い手数料を得られる仕組みです。すでに10億ドル以上が預け入れられており、Solana発のJupiterが複数チェーンで存在感を高めることで、中長期的にJUP需要の拡大が期待されます。

Maple Finance : SYRUP (新規GOOD)

直近の注目ポイント：Plasma進出でSYRUP需要と資金流入拡大

9/15 Maple Financeは Tetherが支える Plasma チェーンで「syrupUSDT」を展開し、Ethereumだけに依存しない体制を明確にしました。Mapleは「これからの利回りチャンスは、安定コイン専用チェーンに集まる」と想定し、新しいチェーンで先行ポジションを確保。ArbitrumやSolanaでの展開と合わせ、SYRUPの需要拡大と資本流入が加速する構図が形成されています。

Pyth Network (継続GOOD)

直近の注目ポイント：米政府提携と鯨買増でPYTH急騰

9/1 週次レポートでも取り上げたPYTHは、米商務省との提携によりオンチェーンで経済データを提供する役割が評価されています。取引量が急増し、大口投資家からの保有も拡大するなど需給面での動きが活発化。加えて供給減少の傾向も見られ、信頼性と実用性が高まることで、中長期的にPYTH需要が拡大していく可能性があります。

Centrifuge : CFG (継続GOOD)

直近の注目ポイント：Aave連携でCentrifugeがRWA存在感強化

8/27 CentrifugeはAave Labsと提携し、RWA貸出市場「Horizon」を立ち上げました。国債等に裏付けられたファンドトークン (JTRSY/JAAA) をAaveに預け、その価値を担保にステーブルコインを借りられる仕組みを実現。これにより「伝統資産を用いた安全性の高いオンチェーン資金調達」が可能となり、機関投資家の利用拡大が期待されます。

Plume Network : PLUME (継続GOOD)

直近の注目ポイント：USDC統合とAI監視でPlume機関採用加速

9/4 PlumeはCircleのネイティブUSDCとCCTP V2を統合し、規制に準拠した決済とチェーン間のシームレスな資産移動を実現しました。メインネット開始からTVLは441%増と急拡大し、RWA特化基盤として機関投資家の参入障壁を下げています。さらに9/10には、CircleやAvalancheも利用する セキュリティ企業Octaneと提携し、RWAトークン化プロジェクトに機関レベルのAI駆動監視を導入。これにより開発者は高度なセキュリティ環境を利用でき、大口金融機関からの信頼獲得が進み、Plumeの利用拡大が期待されています。

Starknet：STRK（要注目）

直近の注目ポイント：BTC利回り導入でSTRK需要増期待

9/30 StarknetはEthereum L2上でビットコインのリキッドステーキングを開始予定です。BTCをラップトークン化してStarknetにブリッジすることで、資産を保持しつつ利回り獲得が可能となります。これによりBTCの巨大な流動性がDeFiに取り込まれ、エコシステム拡大とSTRK需要の中長期的な増加が期待されます。

Axelar：AXL（要注目）

直近の注目ポイント：規制準拠カストディでAXL資金流入加速

9/8 AXLはCrypto.comとの提携により、規制準拠のカストディと流動性基盤を確立しました。これにより機関投資家はAXLを安全に保有・ステーキングできるようになり、大口資金が流入しやすい環境が整備。バリデータ報酬やエコシステム資金の管理も強化され、信頼性向上とともにAXL需要拡大、クロスチェーン基盤の成長を後押しすることで中長期的な発展が期待されます。

Sei：SEI（要注目）

直近の注目ポイント：Chainlink統合でSEI実需拡大期待

9/11 SeiはChainlink Data Streamsを公式オラクル基盤として導入し、サブ秒レベルの低遅延データ提供を実現しました。これにより取引やデリバティブ、RWAトークン化など幅広いユースケースが拡大し、開発者や機関投資家にとって魅力的な環境が整備。高性能L1の特性と相まって、今後SEI需要の中長期的な拡大が期待されます。

継続分析による調査結果(継続分析で特筆すべき注目要因がなかった銘柄)

Virtuals Protocol：VIRTUAL

直近の注目ポイント：流動性維持型ステーキングと上場拡大

9/1 VIRTUALは新機能「VVET」でリキッドステーキングを開始し、保有資産の流動性を維持しつつ報酬やエアドロップを獲得できる仕組みを実現しました。さらにRobinhoodがVIRTUALを上場し、投資家へのアクセス拡大が進んでいます。需要増加が中長期で見込まれます。

MANTRA：OM

直近の注目ポイント：2,500万ドル規模のOM買戻し開始

8/27 MANTRAは追加で2,500万ドルを投じ、戦略的なOMトークン買い戻しを開始しました。初回は約1.1億OM（流通量の約10%）を対象に主要取引所で透明性をもって実施し、取得後は自社メインネットへ移行・ステーキングされます。急落後の信頼回復と長期的なエコシステム強化を狙い、中長期的にOM需要拡大が見込まれます。

直近1カ月のGoodマークの継続調査にて、新しい注目要因が見当たらなかった銘柄となります。

進捗なし：Aerodrome Finance（フォロワー数12カ月連続増加）、Helium（フォロワー数2カ月連続増加）、Stacks（フォロワー数5カ月連続増加）、Euler（フォロワー数9カ月連続増加）

徐々にフォロワー減少中：Ethereum Name Service、Manta Network、Biconomy、Metis、Taiko、Saros、ai16z（アカウント凍結中）

過去週次レポート掲載 大穴銘柄 継続分析ガイド

Goodマーク大穴・新規銘柄の継続調査

調査・分析方法について

過去週次分析レポートにて高評価（Good）を付与した銘柄に関する継続調査。

この調査では、以下の点に着目して分析を行います。

1. 直近の注目ニュースの有無：過去高評価を得た銘柄が、その後も新たな注目を集めるニュースが発生しているかどうかを調査します。
2. 直近の重要指標推移：銘柄の市場でのパフォーマンスや他の重要な指標がどのように推移しているかを調査します。

これらの要素を総合的に評価し、投資家にとって有益な情報を提供することを目指しています。

2024年以降のGoodマークを付与した銘柄一覧

銘柄	レポート掲載日	銘柄	レポート掲載日	銘柄	レポート掲載日
Xai	2024年 1/19	Saga	2024年 4/12	Morpho	2024年 12/6
Manta Network	2024年 1/19	Omni Network	2024年 4/19	NAVI Protocol	2024年 12/13
Ondo	2024年 1/26	Merlin Chain	2024年 4/26	Orca	2024年 12/13
Metis	2024年 1/26	BounceBit	2024年 5/17	Pangolin	2024年 12/20
Dymension	2024年 2/9	Taiko	2024年 6/7	Origin Protocol	2024年 12/6
Aevo	2024年 3/14	io.net	2024年 6/14	Velodrome Finance	2024年 12/20
ether.fi	2024年 3/22	Artificial Superintelligence Alliance	2024年 7/5	DeepBook Protocol	2025年 1/10
Ethena	2024年 4/5	LayerZero	2024年 7/5	Arcana Network	2025年 1/17
Wormhole	2024年 4/5	SaucerSwap	2024年 11/22	RedStone	2025年 3/14
				Succinct	2025年 8/8
				World Liberty Financial	2025年 9/1

※Manta Network、Metis、Taiko、Ondo、Ethenaは中堅銘柄として注目要因を考察しておりますので、新規銘柄のトピックでは割愛致します。

※2023年 Goodマーク付与銘柄：Arkham

ether.fi : ETHFI (新規GOOD)

直近の注目ポイント：ETH Strategy提携で機関向けrestaking基盤へ信頼性強化

ether.fiは先月、ETH Strategyと提携して、同プロトコルのトレジャリー（資金管理部門）がETHを restaking に投入することを開始。これは単なる個人向けDeFiサービスから、企業・機関の資金を扱うステーキング／インフラ事業者へ成長する動きです。既にプロトコル収益を用いたトークン買戻し・バーンで希少性を高め、ETHFIの信頼性を築いてきました。流動性とスケール面でも TVL（資産預かり高）の拡大、透明性のある on-chain 証明構造など着実にインフラ基盤としての強化が進んでいます。

RedStone : RED (新規GOOD)

直近の注目ポイント：Credora買収でREDの信頼性強化

9/3 RedStoneはDeFi信用評価プラットフォームCredoraを買収し「Credora by RedStone」として統合しました。これによりオラクルを活用したリスク評価枠組みを提供し、複雑化するDeFi戦略に透明性を加えます。既に110以上のチェーンで稼働するRedStoneの強みと相まって、機関投資家の信頼を高め資本流入を促進し、中長期的にRED需要拡大が期待されます。

World Liberty Financial : WLFI (継続GOOD)

直近の注目ポイント：WLFI解禁と買戻し提案、成長とリスク併存

9月の週次レポートでお伝えした通り、9/1にWLFIトークンの上場と同時にロック解除が始まり、全体の20%が流通。売り圧力で価格は短期的に下落しましたが、チームは手数料収益を利用したトークン買戻し・バーンを計画中。今後はUSD1のマルチチェーン展開や主要DeFiへの統合、ガバナンス改善が重要な成長要因。中央集権的体制や規制リスクが課題です。

Succinct : PROVE (要注目)

直近の注目ポイント：Arbitrum連携でPROVE需要拡大期待

8/27 SuccinctはOffchain Labs傘下のTandemと提携し、Arbitrumにゼロ知識証明（ZK）技術を導入します。これによりZKロールアップの拡張性と処理速度を大幅に改善し、決済時間を数日から数分へ短縮可能に。既にCelestiaやLidoとも連携するSuccinctの技術は信頼性が高く、Arbitrum経済圏での採用拡大により中長期的にPROVE需要の上昇が期待されます。

継続分析による調査結果(継続分析で特筆すべき注目要因がなかった銘柄)

Omni Network : OMNI

直近の注目ポイント：DeFiツール集から抽象化基盤へ戦略転換

9/29 BinanceはOmni Network (OMNI) の取引ペアを停止し、10/1よりリブランディング後のNomina (NOM) 取引を開始します。OMNIは1:75で自動スワップされ、ユーザー対応は不要。旧Omniが「マルチチェーン対応のDeFiツール集」だったのに対し、Nominaは「チェーン抽象化レイヤー」を軸に、開発者や企業がチェーンを意識せずにアプリ開発や資産移動できる基盤提供へ戦略を転換。

LayerZero : ZRO

直近の注目ポイント：Stargate買収+ZRO供給制限で需給改善 & 実用性強化

LayerZeroは8/24にStargate DAOの買収を完了し、STGは1=0.08634でZROへスワップ、今後のStargate収益の50%がZRO買戻しに充当される仕組みが導入されました。これにより収益還元型のトークン設計が強化され、投資家へのインセンティブが明確化しました。加えて8/19にHyperliquid Bridgeが稼働し、LayerZero対応チェーンからHyperliquidへの資産移動が可能となり、クロスチェーンインフラとしての実用性が一層高まっています。ただし、9/20には2,570万枚（約5,200万ドル相当）のZROがロック解除される予定で、売り圧への注意が必要となる。

直近のGoodマークの継続調査にて、新しい注目要因が見当たらなかった銘柄となります。

進捗なし：Wormhole（フォロワー数5カ月連続増加）、Saucer Swap（フォロワー数10カ月連続増加）、Morpho（フォロワー数12カ月連続増加）、Orca（フォロワー数12カ月連続増加）、Deepbook Protocol（フォロワー数12カ月連続増加）

徐々にフォロワー減少中：Xai、Dymension、Aevo、Saga、Merlin Chain、BounceBit、io.net、NAVI Protocol、Pangolin、Origin Protocol、Velodrome Finance、Arcana Network

引用元：

本レポートにおけるデータおよび分析は、以下の情報源を基にしています。

- CoinMarketCap : <https://coinmarketcap.com/>
- CoinCarp : <https://www.coincarp.com/>
- Messari : <https://messari.io/>
- TokenInsight : <https://tokeninsight.com/>

注意事項

本レポートは、投資助言を提供するものではありません。提供される情報は、一般的な解説に限定されており、個別の投資判断に直接適用するものではありません。投資に関する最終決定とその結果について、当方は一切の責任を負いません。レポートの内容は個人的な使用のみを対象としており、商業的な利用は事前の許可が必要です。商業利用に関するお問い合わせは下記よりご連絡ください。

発行元：TSUDOI

メールアドレス：info@sigmainc.co.jp

ウェブサイト： <https://tsudoi-platform.co.jp/>